

一般社団法人 協力隊を育てる会 御中

## 小さなハートプロジェクト報告書

同報告書や写真等は原則として公開するものとし、一般社団法人協力隊を育てる会が広報等に使用することに同意し下記のとおり報告します。

平成 26 年度 1 次隊 職種 コミュニティ開発 派遣国 ケニア 出身県 栃木

氏名 三関理沙 (ふりがな みせきりさ )

### 1. プロジェクト名 オザヤ市における児童保護施設のドミトリー拡充と緊急対策。

### 2. プロジェクト概要 (準備や実施の期間などを記入)

期 間	実 施 内 容	主たる担当
2016 年 5 月	ベッドの発注	施設長、JOCV
2016 年 5 月	マットレスの発注	施設長、JOCV
2016 年 5 月	消化器購入	JOCV
2016 年 5 月	消化器使用についての説明会	消火器サプライヤ ー、施設長、JOCV
2016 年 6 月	救急箱購入	JOCV
2016 年 6 月	救急箱使用方法・ 緊急時対応方法についての指導	ケニア赤十字、施設 長、JOCV
2016 年 6 月	ベッド・マットレス納品・設置	施設長、JOCV
2016 年 6 月	新しいドミトリーの使用開始	施設長

### 3. プロジェクト進捗詳細

#### 進捗状況①

#### ●タイトル

#### 火事へ対応と消化器の使い方

#### ●詳細説明

消火器を購入したサプライヤーのジェームスさんにご協力を頂き、火事への対応と消火器の使い方に関する講座をビウォミ児童養護施設で実施した。「火とは何か?」という問いかけから始まり、同施設で火事が起こる可能性がある場所を確認した。火事を発見した場合、火事の発生を声に出して周りに知らせること、安全を第一優先にして退避すること、夜の場合には他の子どもを起こしてすばやくマネージャーに報告すること等を確認した。消火活動は二の次で自分の安全を確認し、消火器を使った消火活動は、マネージャーや高校生の子どものみが実施できるとした。高校生 2 人が CO2 の消火器で実際に火を消す実演を行った。また消火器の使い方のパネルを作成し、消火器と一緒に設置した。消火器の使い方の手順である、PASS (Pull Aim Squeeze Sweep) を子どもたちと一緒に復唱しながら確認を行った。それに加え、作成した消火器の種類一覧表を子どもたちに見せながら、適切な消化器

の選び方を指導した。消火器の定期点検に関しては、1年ごとに必要となるため、今後もジェームスさんに依頼することとなった。また使用期限切れや空気圧不足などの確認も行い、その際の点検・補充費用は、同施設のマネージャーが毎月100シル（80円程度）を貯金し管理する。



写真1

CO2の消火器を使用して、使い方を説明するジェームスさん。消火器が使われているところを初めて見る子どもたちは興味津々で興奮気味であった。しかし、マネージャーから、自分の命を守るために大切な勉強であると伝えると、子どもたちの表情が変わった。



写真2

消火器の使い方を示したパネルを設置。下部にはスワヒリ語で、火事を発見した場合にはまず大人を呼ぶことと付け加えた。

## 進捗状況②

### ●タイトル

救急箱の使い方とケニア赤十字の活動紹介

### ●詳細説明

救急箱を購入したケニア赤十字ニエリ支部より、ボランティアの啓発活動チームが同施設を訪問し、救急箱の使い方とケニア赤十字の活動紹介を行った。転倒などによる擦り傷や切り傷などの軽度の怪我は、清潔な水で洗い流し、程度によって消毒液、絆創膏、ガーゼを使用するようにと指導された。救急箱は事務所で管理し、必要な場合はマネージャーや他のスタッフにお願いして、手当てを受けることを説明した。またマネージャーは、消火器の管理費に加え、救急箱の消耗品は毎月の貯蓄から購入することを確認した。ケニア赤十字の活動紹介では、赤十字の歴史を紹介するとともに、訪問した啓発活動チームから、同施設があるオザヤ市で起こりうる災害について考えるワークショップを実施して頂いた。洪水と干ばつは、相反しているように見えるがオザヤでどちらもいつ起こるかは予想できないという話であった。災害はいつ起こるが予想できず備えることが必要だということ子どもたちが知るよい機会となった。



写真3

ケニア赤十字ニエリ支部のボランティア啓発活動チームリーダーであるメリーさん。同施設で生活する上でどんな怪我が起こりうるか子ども達に尋ねている。



写真4

ボランティアチームが訪問してくれた御礼に子どもたちからダンスと歌のプレゼントをしている様子。

#### 4. プロジェクト成果（500文字程度）

本プロジェクトは、「子どもたちの安全」を最優先に考えて進めた。マネージャーは、子どもたちの学費や従業員の給料支払いで頭が一杯になってしまい、以前は子どもたちの安全について考える余裕がなかった。申請書を書く段階から時間をかけて協議する中で、マネージャー自身も意識が変わり、継続的に子どもたちが安全に暮らす家にしようと、ドミトリーの通路の確保等自主的に動いてきた。本プロジェクトにおいて、ベッドやマットレスを新たに購入することで、安全で清潔なドミトリーにしようとする気持ちの変化が子どもたちに起こり、設置前に大掃除を自主的に行い、新しいベッドとマットレスを長期的に使えるようにした。また「日本の商品は長持ちする」と海外でよく言われるが、「日本人はものを大切に使うからだ」ということを贈呈式で子どもたちに話した。また救急箱と消火器を購入したケニア赤十字ニエリ支部と、防災用具のサプライヤーであるジェームスさんが同施設を訪れたことで、マネージャーとの関係を築き、今後新たに支援を約束してくれた。現地で物品を購入することで、同施設への新たな理解者と支援者を獲得することができた。ジェームスさんは、消火器設置後に子どもたちへキャベツ等の野菜を実際に届けてくれた。ケニア赤十字からは、今後実施する防災対策講座等の案内をマネージャーに直接案内することとなった。本プロジェクトは、物品を購入するだけでなく、プロジェクト受益者やサプライヤーたちの認識を変え、彼らの生活向上のために大きな変化をもたらしたと感じている。

写真5

以前使用していたベッド。ベッドの支柱が弱っており、上部ベッドに登る際に揺れるため、危険であった。





写真6

ベッドのサイズが子どもによって異なり、子どもたちの不満もあった。安価のマットレスを5年以上使用しており、クッション性が落ち、汚れが落ちなくなっていた。



写真7

すべて二段ベッドとなったため、狭かったドミトリーにスペースができた。不衛生なマットレスが取り除かれ、新しいマットレスが提供された。

## 5. 感想・苦労した点・今後の課題等

消火器を購入予定だった店舗で、新しい消火器を用意できないことが判明し、再度消火器を購入できる場所を探した。消火器を売っている店舗を知っている人がおらず、時間が掛かった。消防署へ訪問したが、消防署では消火器の販売や講座は実施しておらず、他のサプライヤーを紹介してもらった。今回講師も務めて頂いたジェームスさんはオザヤ市内の学校に消火器を販売しているとのことで、送料を無料でナイロビから、消火器を運んでくれた。またビウオミ児童養護施設の経済的な苦境を理解してくれ、消火器の価格を大幅に割引し提供してくれた。購入に至るまで時間と手間がかかったが、最終的には同施設へ協力してくれる方々から必要な物品を購入することができ、成功へ導くことができた。

## 6. プロジェクト概算書

### 収入

	項目	金額 (現地通貨)	金額 (日本円)
1	小さなハートプロジェクトによる支援金	KES 215, 205	¥ 219, 510
2	被支援者負担額	KES 795	¥ 810
収入合計		KES 216, 000	¥ 220, 320

※振込金額 US\$2, 162. 86 ケニア両替時レート USD1=KES99. 5

### 支出

	項目	金額 (現地通貨)	金額 (日本円)
1	ベット 19 台 (領収書①+⑤+⑥)	KES 95, 000	¥ 96, 900
2	マットレス (33 枚) (領収書②+⑦)	KES 84, 600	¥ 86, 292
3	消火器 (水) (領収書③)	KES 5, 500	¥ 5, 610
4	消火器 (CO2) (領収書③)	KES 8, 500	¥ 8, 670

5	消火器（粉）（領収書③）	KES 6,500	¥ 6,630
6	救急箱（2セット）（領収書④）	KES 15,900	¥ 16,218
7	現地事務費（報告書作成・写真・現像費等）	KES 0	¥ 0
支出合計		KES 216,000	¥ 220,320

換算の基礎となったレート（現地通貨とまたは円） @1KES=1.02円

\*上記に書ききれない場合は、別紙にて申請してください。

添付1 領収書

### 支出金額の変更に関して

消火器は、申請時の見積り通り予定数を購入したが、値引きしてもらったため、1本7,990シル（3本23,970シル）の予定が3本合計で20,500シルとなった。

ベッドは一台5,500シルの予定が5,000シルになり、19台で95,000シルになった。

マットレスは、一枚1,400シルのマットレスを購入予定であったが、他の物品の値引き分の余剰金で予定より良質の厚さがある2,600シルのものを21枚購入した。二回目の購入では、サプライヤーがさらに割引してくれたため、同質のものを1枚2,500シルで、12枚購入した。